



オレンジロードつなげ隊 映画上映会



認知症の母と耳の遠い父と離れて暮らす私

# ぼけますから、 よろしくお願いします。



ドキュメンタリー映画

広島県呉市。泣きながら撮った1200日の記録

入場無料  
申込不要

**11月9日(土) 13時30分上映 (12時30分開場)**

場所：山村開発センターみずほ



監督・撮影・語り

ひとり娘

信友直子

プロデューサー：大島 新 濱 潤 共同プロデューサー：前田亜紀 轟 治樹 山口浩史  
編集：目見田 健 実景撮影：南 幸男 音響効果：金田智子 ライン編集：池田 聡 整音：富永恵一  
配給宣伝協力：ホレボレ東中野 ウッキー・プロダクション 製作・配給：ネツゲン フジテレビ 関西テレビ  
2018年/日本/カラー/102分/©「ぼけますから、よろしくお願いします。」製作・配給委員会

[www.bokemasu.com](http://www.bokemasu.com)



# かたうを向けず 初めづいいた。 両親がお互いを思い合っていること。

**母、87歳、認知症。  
父、95歳、初めての家事。**

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めそめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファイナダーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あんたはあんたの仕事をせい」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

## 大反響のテレビドキュメンタリー、 待望の映画化。

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ/関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。



港町呉は坂の多い町でもあります。買い物するにも一苦労。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。

ひとり娘  
ドキュメンタリー監督  
**信友直子**



1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金賞奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。



涙涙。椅子から立てないくらいの衝撃でした。(56歳女性)

いまだに涙がとまりません。思いやりが人生を豊かにすること。忘れずに生きていきたいです。(49歳女性)

まるでお家にお邪魔しているように。心がキューっと苦しくなったり、ぼっ、と心が温かくなったり。(29歳女性)

お三方の声のなんと優しいこと。こんな優しさに満ちた声の響きを聞いたことはありませんでした。(74歳男性)

番組にいただいた感想の一部です

考えさせられます。夫婦とは家族とは老いるとは…娘さんの泣きながらの撮影にもらい泣きました。(55歳女性)

誰でもかかる可能性のある身近な病気『**認知症**』  
**認知症**になっても安心して暮らせるまちづくりとは・・・  
当事者の立場として、家族として、一緒に考えてみませんか

託児ルーム使用できます！(要 事前申し込み)

※ボランティアが常駐します

申込先:京丹波町社会福祉協議会丹波支所(担当:山崎) ☎0771-82-0126



<お問い合わせ先>  
京丹波町地域包括支援センター  
☎0771-82-0001  
(認知症に関するご相談はこちらへ)